

て、大部の研究発表は大会の中間に行なう夏・春の講演会を活用するなどの方法をとっていただきたい。また発表方法も、限られた時間内に問題点が聞き手に明確にわかるよう、問題提示や議論の展開の方法に事前の十分な配慮と準備が必要であろう。現在の発表時間では、スライドの枚数も10枚前後が限度ではないだろうか。

次に座長会議でも指摘された点であるが、図表やスライドは、参会者によくわかるようなものを準備していただきたい。これに関連して今後は会場の広さ等については大会告示の際、併せてお知らせする考えである。とくに表や数式等の文字は見にくい場合が多いので、字の大きさ、スライドの仕上りなどに注意が必要である。

また、今大会では、研究発表の取消が目立った。発表者の不測の事情もあろうが、大会の運営の上で支障を来

すことも多く、また参会者の期待を裏切る結果にもなるので、今後は事前に代読等の適切な処置をとられるよう希望する。

最後に予稿集について、今回も予稿集が第1日早々に売切れて、予約されなかった会員の中には入手できなかった方が多かった点、申し訳なく思う。しかし、理事会をはじめ、関係方面のご配慮で刊行されている現状から、今後はぜひ予約を励行されるよう希望する。

今回の大会は座長の review にも見られるように、多少の無理な点があったにもかかわらず、活潑な討論が行なわれ盛会であった。座長の方々、ならびに大会の運営にお骨折りいただいた東京管区気象台および東京教育大学の方々に感謝の意を表する。 (講演企画委員会)

第19回(13期)常任理事会議事録

日時: 昭和40年12月6日(月) 15.00~18.30

場所: 気象庁観測部会議室

出席者: 畠山, 北岡, 桜庭, 吉野, 大田, 今井, 岸保, 正野, 神山, 小平, 安藤, 増田(順序不同)

議 決

1. 国際雲物理会議の会計報告
組織委員会の会計担当渡辺委員より会計報告があり、会計監査報告も含めこれを承認する。
なお、組織委員の解任と謝意を表明する手紙をだす。
2. バウンダリー・レーヤーのシンポジウムに関連して開かれる気象学会主催の Meeting について
イ. 春季総会で議決された上記の Meeting は正式名を Tokyo Meeting on Diffusion in the Atmosphere and Ocean とし 9月16, 17日気象庁で開く。
ロ. 招待状は1月中に発送しそれに必要な経費は学会で負担する。
ハ. 準備委員会の委員長として正野会員, 委員として坂上, 大田, 井上, 小倉, 横山, 竹内, 根本, 鈴木, 坂岸, 吉武の各会員を依頼する。
3. 中浅測器よりの寄附金について
中浅測器よりの申し出は気象学会賞の基金として

お受けすることにした。

4. 気象集誌, 天気編集費について
来年1月より各号について4,000円を増額する。
5. 事務局の中島氏の給料を来年1月より月3000円値上げする。